

1 単元名 たしざん(1)

2 単元を貫くテーマ

たし算が用いられる場面を知り、たし算の記号や式のとよみ方、かき方を理解する。

3 単元について

本単元では初めて式についての学習をし、その式の中でもたし算を取り上げていく。たし算が用いられる場面は「合併」と「増加」の2つの場面がある。この「合併」と「増加」の場面を理解させるために、必ず数図ブロックによる算数的活動を取り入れている。「合併」は2組のものを1つにまとめる操作であり、数図ブロックを両手で合わせる。「増加」はすでにあるものに追加する操作であり、数図ブロックを片手で寄せる。2つの具体的な場面と数図ブロックによる算数的活動を合わせて丁寧に指導する。算数の学習が進んでいくと、式は計算して答えを出すものという考えに陥りやすい。よって、本単元では式は「算数のことば」であるという意識を持たせたい。具体的な場面から数図ブロックの操作、ことばによる表現、式による表現という一連の算数的活動を大切にする。単に与えられた場面でたし算の計算ができるだけでなく、具体的な場面をたし算の式で表現したり、逆にたし算の式が適用される場面を探して具体的な場面をことばで表現する活動を行う。

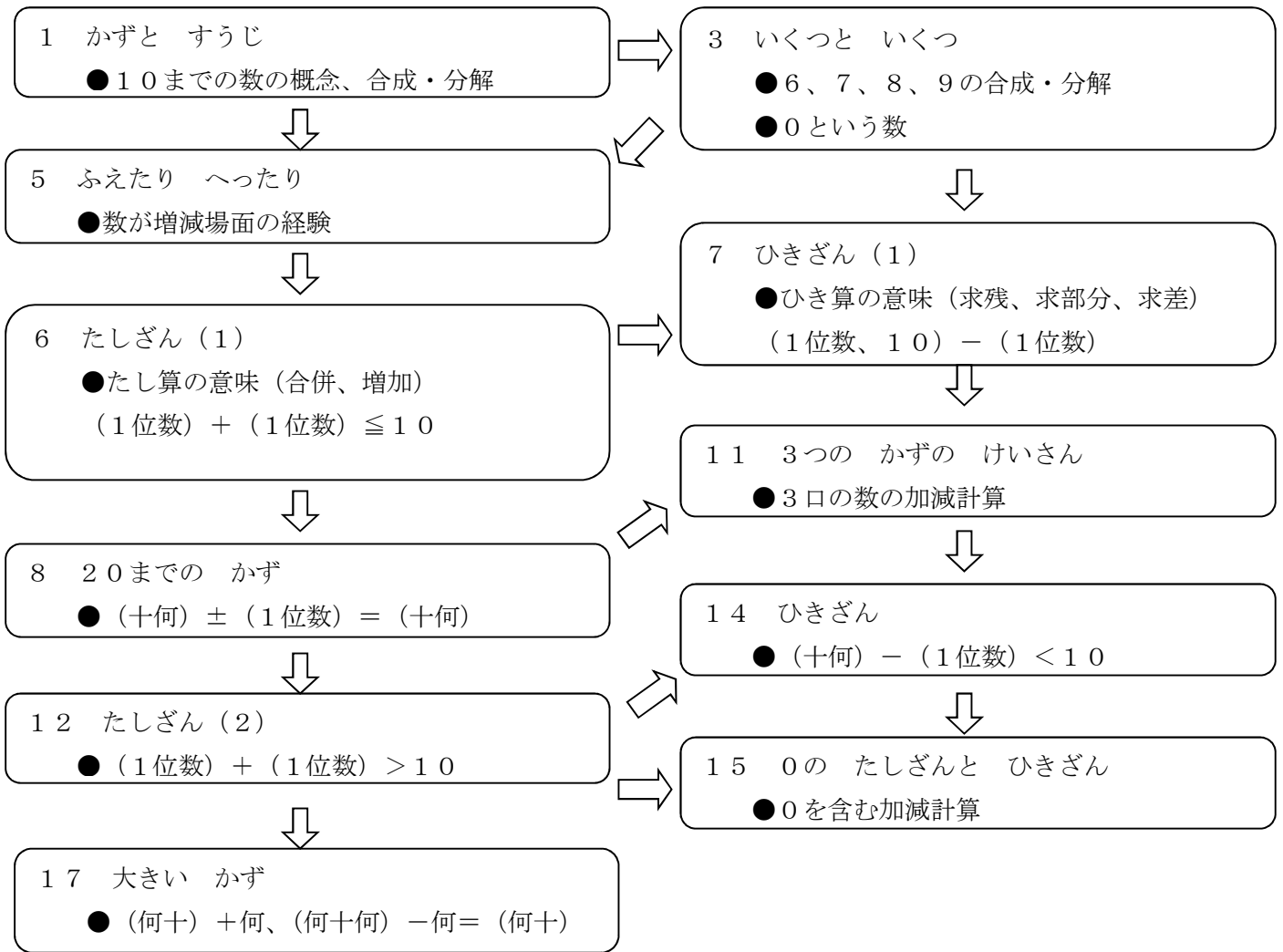
①児童について

本学級の児童は算数的な活動など意欲的に行う児童が多い。自分の考えを発表しようとする児童が多く、白板の前でも指示棒を使って、考えを発表する姿も見られる。しかしながら、意欲的である反面、説明するための算数的な言葉や話型などの理解が不十分であるために、説明に戸惑う児童も見られる。また、ペア活動で理解確認、理解深化問題を行っているが、まだ経験が浅く友だちに対して分かりやすい言葉で説明できず、困ってしまったり、中途半端な所でペア活動が中断してしまったりすることがある。算数的な言葉を用いて、相手に分かりやすいような言葉を自ら選んで説明できる力を身に付けさせたい。

②単元構成について

本単元は、数図ブロックを用いて、たし算の「増加」について学習する場面である。これまで、「いくつといくつ」という単元で6から10までの数の合成と分解について、「ふえたりへったり」で数量の増減について、「あわせていくつ」では、「合併」について学習してきた。どの単元においても数図ブロックを使用し、その扱い方や操作の仕方についても慣れてきている時期でもある。増加といった概念は「ふえたりへったり」の学習で少し触れてはいるが、児童にとってはあまり身近な考えではないように思われる。本単元では前時の合併の考えと増加の考えは異なることを明確にしていきたい。説明する場面、理解確認の場面において、もともとある数(数図ブロック)は動かさず、増加する数(数図ブロック)を移動させることを徹底して理解させたい。「理解深化」の場面では、「増加」の場面を用いた問題作りをペア活動で行う。ペアで1つの問題を作成し、数図ブロックを使ってお互い問題を解いて確認し合う活動を行う。ペア活動で完成した問題を全体で共有し、「増加」についての理解を深めていく。

4 指導の系統



5 単元の目標

たし算が用いられる場面を知り、たし算の記号や式のよみ方、かき方を理解する。
 $(1\text{位数}) + (1\text{位数}) = (10\text{以下の数})$ のたし算ができる。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。	合併や増加の場面を、同じたし算と考えることができる。	合併や増加の場面をたし算の式に立式し、 $(1\text{位数}) + (1\text{位数}) = (10\text{以下の数})$ の計算をすることができる。	たし算が用いられる場面、たし算の記号や式のよみ方、かき方を理解する。

7 指導と評価の計画 (全 12 時間)

時間	ねらい	評価規準				【教えること】以下【教】【考えさせること】以下【考】
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
1	・数図ブロックを操作し、合併の場面を理解する。		・合併の場面をたし算と考えられる。		・合併の場面を理解できる。	【教】数図ブロックを使って、合併を理解する。 【考】いくつといくつをあわせたのか考える。
2	・たし算の式を知り、たし算の式に書いて答えを求めることができる。	・進んでたし算を用いようとする。		・たし算の式に書いて答えることができる。		【教】数図ブロックを操作し、たし算の計算方法を知る。 【考】計算間違いしたもの見て、正しく訂正させる。
3 本時	・数図ブロックを操作し、増加の場面を理解する。		・増加の場面をたし算と考えられる。	・増加の場面をとらえて、話をつくることができる。	・増加の場面を理解できる。	【教】数図ブロックを操作して、増加について理解する。 【考】数図ブロックを操作して、増えた数を考える。
4	・具体的な場면을たし算の式に書いて答えを求めることができる。	・進んでたし算を解こうとする。		・たし算の式に書いて答えを求めることができる。		【教】増加の問題でたし算の式で解く方法を知る。 【考】計算間違いしたもの見て、正しく訂正させる。
5	・具体的な場면을たし算の式に表す、逆にたし算についての理解を深める。		・文章からたし算の式を予想でできる。	・文章をたし算の式に表すことができる。		【教】文章問題から、立式する方法を知る。 【考】式から文章問題を考える。
6 7	・たし算のカードを使って、たし算について習熟する。	・進んでたし算カードでたし算ができる。		・加法の計算が確実にできる。		【教】たし算カードの使い方。 【考】答えが10になるものを見つける。
8	既習事項の復習					

8 本時の学習

(1) 目標

- ・数図ブロックを操作し、増加の場合を理解する。

(2) 準備

- ・教科書の問題を拡大したものと理解深化の問題を拡大したプリント

(3) 学習課題

① 習得させること

- ・数図ブロックを操作して、増加についての意味を理解する。

② 予想される児童のつまづき

- ・合併と増加の違いが分からない。
- ・数図ブロックを上手く操作できない。

③ 深化問題

- ・「増加」の考えを使った問題作り。

④ 予習について（前時の授業において時間を確保する）

- ・教科書を読み、学習内容の見通しを持つ。

(4) 展開

	教師からの説明・課題提示	児童の学習活動	教師の支援(・)と評価(※)
教 え る 10 分	○予習確認をする。 1 説明	○本時の学習内容を確認する。 ○本時の課題を確認する。	・前時のうちに予習をしているので、本時の内容の確認をする。
考 え さ せ る 30 分	○「増える」について、数図ブロック操作し、理解する。 2 理解確認 ○理解確認問題を行う。 ①花が5本です。 3本入れると何本になりますか。 ②子どもが3人です。 6人くると何人になりますか。 3 理解深化 ○理解深化問題を行う。 ①話型を使って「増加」を使った問題作りを行う。	○左側に4個置かれた数図ブロックから、右側に置かれた2個の数図ブロックを左に寄せるように操作し、6個になることを知る。 ・数図ブロックを操作し、増加について確認しながら、問題を解く。 ・問題が解けたら、ペアで説明し合う。 ()が()です。 ()ふえると なん()になりますか？	・左側に置かれた数図ブロックは移動させないことを確認する。 ・「○○が○○増えると○○になります。」という話型を意識させながら説明させる。 ※ 知 増加の場面を理解できる。(観察・ノート) ・最初は教師が具体的に言葉と数を入れて問題を作

㊟ふえるといくつになるかをかんがえよう。

<p>自己評価 5分</p>	<p>②話型の空欄が増えた「増加」の問題作りに挑戦する。</p> <p>4 自己評価 ・本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話型を活用して問題作りを行う。 ・ペアで相談しながら考える。 ・ペアで数図ブロックを操作しながら答えを考える。 ・問題を発表し、全員で解く。答えをペアで説明させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>() が () です。 () <input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/> と なん() になりますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・□に入る言葉も考えて、ペアで問題を作る。 ・ペアで数図ブロックを操作しながら答えを考える。 ・問題を発表し、全員で解く。答えをペアで説明させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを顔のマーク（ニコニコ、普通、よく分からない）で表現させる。 ・今日の学習の振り返りを発表させる。 	<p>り、児童に解かせてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が考える問題によっては「ふえると」という言葉が合わないことがあるが、今回は「ふえる」という言葉に合わせて問題を作ることを確認する。 ・□の部分には「ふえる」「いれる」「くる」「のる」「もらう」などを入れると良いことを伝える。 ・□に言葉が思い浮かばない場合は、前回と同じ「ふえる」でも良いことを伝える。 ・よく分からないことについても書いて良いことを伝える。
--------------------	---	--	---